

かも先生の特別支援教育だより



○わかりやすく伝えてみましょう

「子どもに伝えるときは、わかりやすく伝えましょう」とよく言われます。今回は、わかりやすく伝えることについて、考えてみましょう。

【具体的な言葉で伝える】

何かをしているとき、子どもに呼ばれて…「ちょっと待って!」と言うことありませんか? 「ちょっと」って、人によっては2~3秒だったり、2~3分だったりします。なので、「3分待って」とか「コップを洗い終わるまで待って」などが具体的であると考えられます。

【視覚的支援を用いて伝える】

「3分待って」と伝えられてもわからない場合には、砂時計やタイムタイマーの利用が考えられます。言葉を視覚化することによって、よりわかりやすくなる場合があります。

【短い言葉で伝える】

一度にたくさんのことを伝えようとするあまり、何を伝えられたかがわからない場合があります。箇条書きをイメージして伝えると、わかりやすいと思われれます。

【身体的ガイダンスを交えて伝える】

ダンスの振り付け（両手をあげる）で「両手を上に!」と言ってもなかなかできないとき、言葉だけでは伝わりにくいこともあります。また、先生の手本を見て振り付けを覚えるのも難しいお子さんもいます。そんなとき、先生と一緒に手を添えて「両手を上に」と言いながらお子さんの手を上げる方法もあります。

最後に…。子どもに伝えるときは、まず**話し手であるこちらに注目させる**ところから始める必要があります。特に集団が大きいと、話し手に注目しづらい子どももいます。そんなときは、他の先生に手伝ってもらい注目を促す、注意が向きにくい子どもの前に行ってその子どもの肩に手を置いて話す等、工夫すると良いかもしれません。

